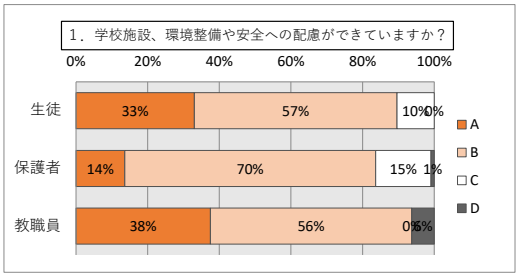
保護者様

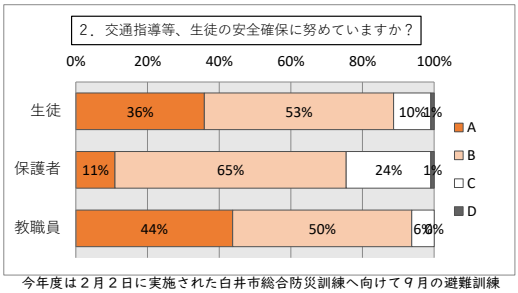
令和７年２月吉日
白　井　中　学　校
校　長　菊池　崇志

後期学校アンケート集計結果について

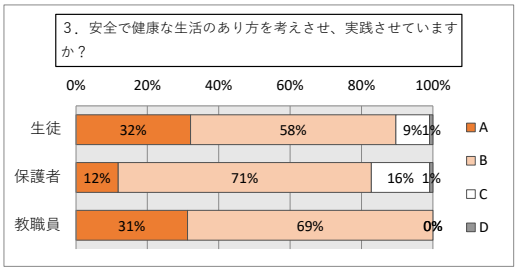
1月上旬にご回答いただきました学校アンケートの結果をお知らせいたします。
グラフ上段が生徒、中段が保護者、下段が職員となっており、同じ項目における評価となります。今後の教育活動の参考とさせていただき、充実に努めてまいる所存です。お忙しい中、ご回答と貴重なご意見をありがとうございました。
【保護者アンケート回収率】　85.2％（110/129）
【グラフ中の割合】　A 十分達成されている　B ほぼ達成されている　C あまり達成されていない　D 全く達成されていない



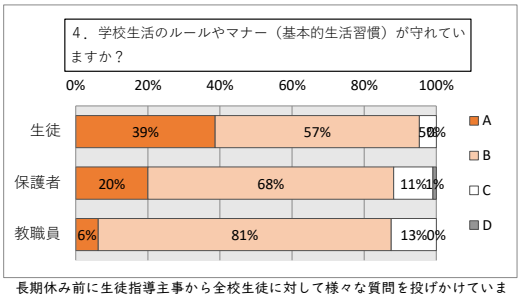
職員による毎月の施設の安全点検を二人制にして、より多くの目で実施するようにしています。市からの委託業者による専門的な安全点検がなされています。また、施設に不具合が生じた場合には、市教育委員会に修繕を依頼しています。



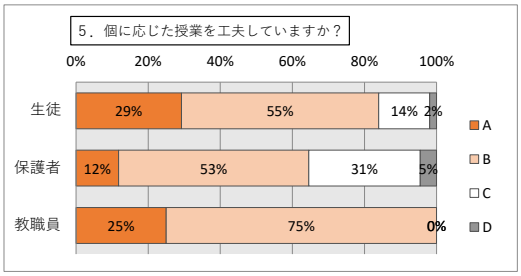
今年度は２月２日に実施された白井市総合防災訓練へ向けて９月の避難訓練から危機管理課とコラボした防災教育に力を入れ、11月は保護者の方も参加したミニ集会を実施しました。不審者対応では警察の方を講師に招き、教員も一緒に実践形式で学ぶ機会になりました。



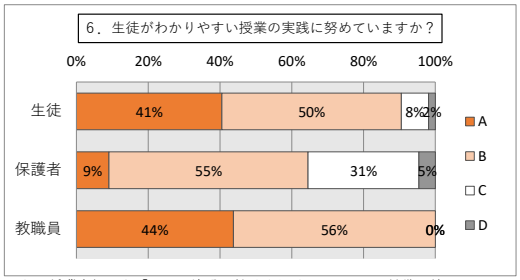
今年度は防災教育に力を入れて、危機管理課から専門的な知識をご教授頂きました。教員も含めた小グループでの話し合いを多く入れ、意見を共有しながら防災に対する意識を深める集会も実施しました。月に一度の保健指導日や栄養教諭からのお昼の放送からも健康な生活のあり方を考えました。



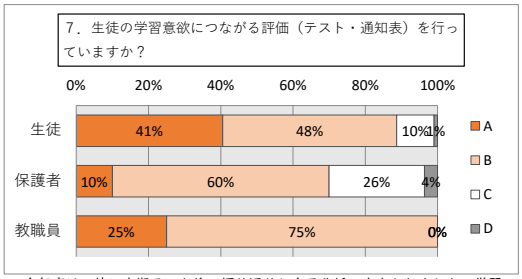
長期休み前に生徒指導主事から全校生徒に対して様々な質問を投げかけています。まずは自分で考えて、そして、近くの友達と共有する集会を多くもたせました。ルールやマナーに関しては、様々な場面で生徒と一緒に考える機会を作るようにしています。



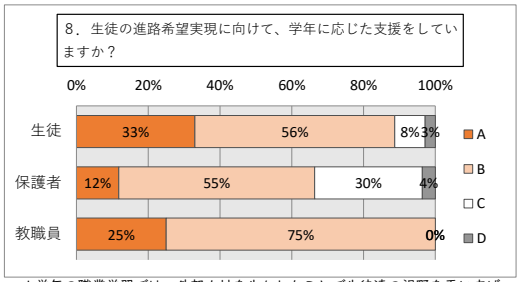
今年度も学校支援アドバイザーから、新学習指導要領改訂に伴った、令和教育の柱でもある「個別最適な学び」「協働的な学び」の研究を継続しています。どの授業でも「誰一人も取り残さない学習の雰囲気作り」を大切にしています。



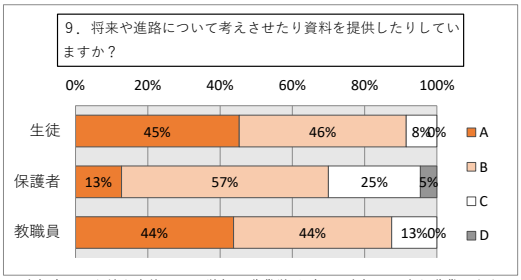
相互授業参観から「ＩＣＴ機器の効果的な活用」について挑戦は続けております。個別最適な学びと協働的な学びにより、深い学びが実践できるよう、話し合いや教え合いなどの場面を多く取り入れております。



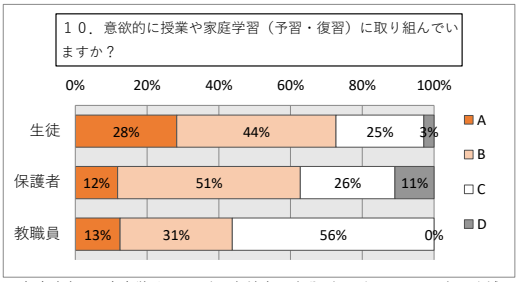
今年度は、特に定期テスト後の振り返りと自己分析に力を入れました。学習への取り組みはもちろん、勉強の仕方等、生徒の多様性に応じた指導を各教科で心がけています。



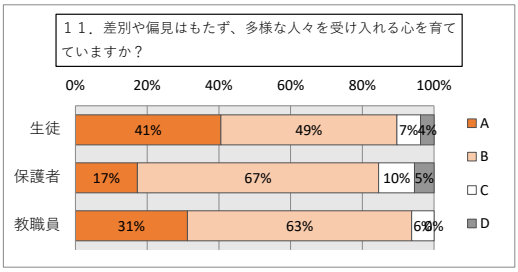
１学年の職業学習では、外部人材を生かしたことで生徒達の視野を更に広げることができました。２学年でも外部人材のプログラムを活用した職場体験への取り組みを試みました。３年生は進路学習をメインに社会について学ぶ機会を様々な場面で意図的に作りました。



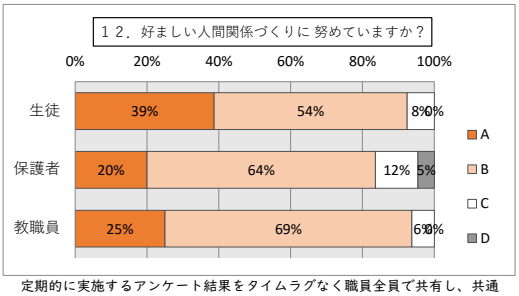
昨年度に引き続き実施した１学年の職業学習では、昨年とは違う職業の方をお招きし、幅広いプログラムを実施しました。２学年の職場体験は外部機関を活用した新しい形で実施しました。３年生では、進路学習全体を通して自律を促し、自分自身を振り返る機会を多く作っています。



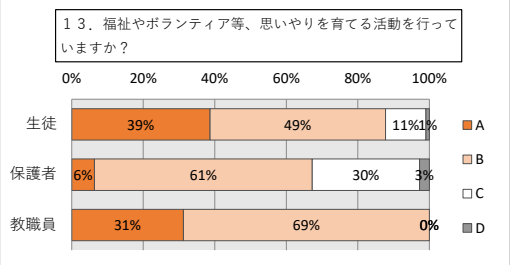
年度途中に、家庭学習のやり方や朝読書の時間に視写を入れる取り組みを試しました。学習する習慣はもちろん、学力向上に繋がる方法を試行錯誤しております。



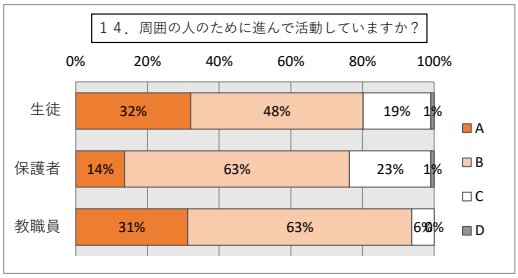
授業をメインとした日々の学校生活を通して、好ましい人間関係のあり方について、その都度、支援をしております。保護者への連絡を密にして生徒が抱える悩みを一緒に解決し、よりよい人間関係が築けるよう支援して参ります。



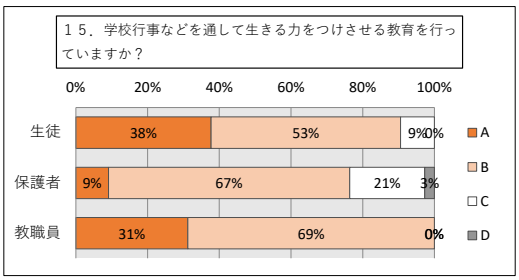
定期的に実施するアンケート結果をタイムラグなく職員全員で共有し、共通行動するような組織対応を徹底しています。学校目標にも掲げているように「相手の気持ちや立場を大切にできる生徒」の育成に力を入れております。



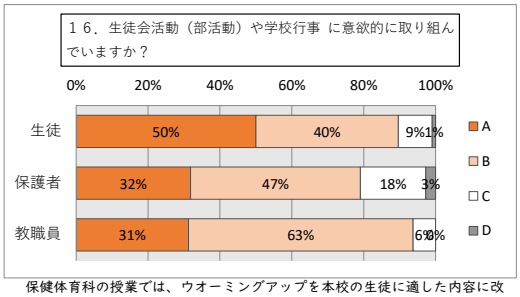
本校の特色でもある１年次の福祉体験学習を通して、福祉に興味・関心をもち「豊かな心が宿る生徒」の育成に繋げています。また、生徒会活動を柱としたボランティア活動を大事にしています。



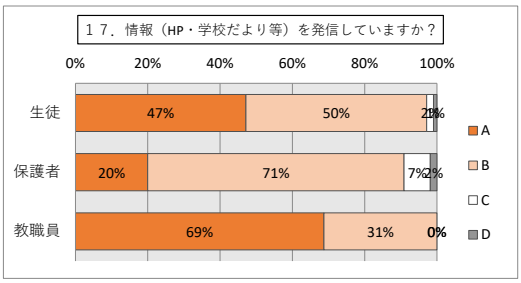
１年次の福祉体験学習を、進級した後も様々な場面で触れるようにしています。生徒会を中心に実施する募金活動や、毎年秋に実施する昼休みの落ち葉掃きには多くの生徒が関わる温かい雰囲気があります。



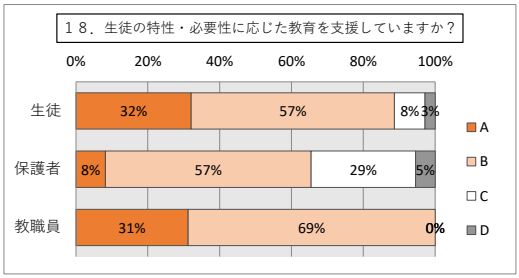
時代の流れに行事削減はあるものの、行事後の生徒達の感想を読むと、それぞれの行事からの学びや成長の教育効果は高いです。縮小の方向に動きつつも、心の成長に繋がる行事を実施します。



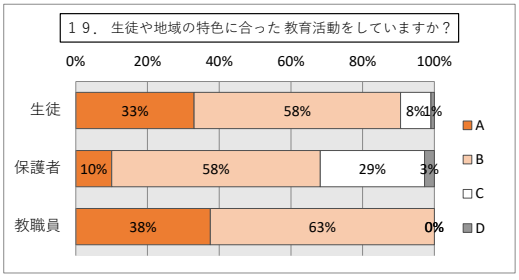
保健体育科の授業では、ウオーミングアップを本校の生徒に適した内容に改良を重ねながら取り組んでおります。生徒主体の活動を通して「知・徳・体の調和のとれた人間形成」をバランス良く取り入れた学校運営をします。



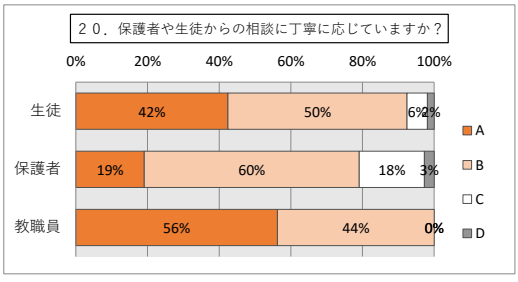
ＨＰは、ほぼ毎日更新しております。また、各学級の学級通信なども毎週発行されております。月刊の学校便りと、不定期で発行している学年便りでも、生徒の活躍や学校での生活の様子をお伝えしています。



特別支援教育では、ルビ付きの教科書をタブレットに取り込んだり、外国籍の生徒が翻訳機を活用した定期テストを実施したり等、生徒達の様々な背景を共有しながら外部機関を効果的に活用しております。



来年度から始まるコミュニティー・スクールの実現を目指して、地域の方々が様々な形で教育活動に参画できる事業を増やしていきます。特に、学力向上に繋がるよう学習ボランティア等のシステムを検討していきます。



今年度も生徒指導主事を中心に「SOSの出し方教育」に力を入れております。そのために令和の生徒指導の実現に必要な職員研修にも力を入れます。セクハラ相談窓口や教育相談以外にも相談できる機会を増やし、学校生活を充実させていけるよう対応しています。